

令和3年2月14日

新型コロナウイルスワクチンの薬事承認を受けて

公益社団法人日本医師会

会長 中川 俊男

2月14日、日本で初めて新型コロナウイルスワクチンが薬事承認されました。

これまで国民の皆さんが一丸となって新型コロナウイルス感染症拡大と闘ってきました。ワクチンの接種が始まることで、この闘いは、これまでの「守り」から「攻め」に転じるものだと考えます。

皆さんの中には、新型コロナウイルスワクチンの副反応をはじめとする安全性への心配から、ワクチン接種を躊躇されている方もあるかと思います。2月12日の薬事・食品衛生審議会第二部会では、今回提供がはじまるファイザー社のワクチンは臨床試験で95%の発症予防効果があり、重篤な副作用がほとんどなかったことが確認されました。また、医療従事者の先行接種においては、接種後の状態や有害事例の収集が行われます。日本医師会としても全国の医師会と連携して情報を収集し、皆さんに、ワクチン接種を受けるかどうかの判断をサポートできる情報をわかりやすくお伝えしていきたいと思えます。

日本医師会は、皆さんが安心して接種を受けられるよう、集団接種に加え、かかりつけ医が行う個別接種を適切に組み合わせることを提案しています。地域の医師会も万全の体制で臨んでいます。基礎疾患をお持ちの方など、ワクチン接種に不安がある方は、あらかじめ、かかりつけ医にご相談いただければと思います。かかりつけ医をお持ちでない方も、身近な医療機関や地域医師会にご相談ください。

ワクチン接種は感染を防止するための最大の手段のひとつです。しかし、ワクチン接種が行き渡るまでには相当な時間が必要です。長期的な効果の持続性も現在ではよくわかっていません。皆さんには、引き続き、マスクの着用、手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。